

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (環境) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3133
2. 授業担当教員	河合 光利		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する5領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。特に、幼児期において育みたい「資質・能力の三つの柱」の視点を念頭に、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。</li> <li>・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。</li> <li>・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。</li> </ul>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習に示された学習課題に取り組んで、授業に出席し、課題 (事後学習) をまとめる。</li> <li>2. 小レポート、及び期末レポートの課題をまとめる。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 若月芳浩編『保育・幼児教育シリーズ 環境の指導法改訂第2版』玉川大学出版部 2019</p> <p>【参考資料】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) その他、適宜資料配布</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得することができた。</li> <li>2) 子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できた。</li> <li>3) 子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定する方法を理解することができた。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>上記の学習目標に基づいた規準を以下の方法で総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席, 参加, 発表等から授業に取り組む姿勢 「授業態度」 (20%)</li> <li>2. 各授業内の課題, 中間レポート等 「小レポート」 (20%)</li> <li>3. 学習内容を総括する課題 「期末レポート」 (60%)</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもたちの前に立つとき、現在の「育てられる」立場から「育てる」立場に身を置くことになる。保育者自身が子どもたちにとって影響力の大きい人的環境であることを自覚し、その時々の子どもの思いを感じ、共感できる良き理解者となるよう意識を持つことが望まれる。また、保育者は日頃より、自然現象を始め、動植物や日本の伝統行事等にも興味、関心を抱き、自分に何ができるかを考えていくことが求められる。意欲的に学習に取り組み、豊かな発想を身に付け、保育実践に生かしてほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業に出席する</li> <li>2. 豊かな発想をもって意欲的に参加する</li> <li>3. 机上の授業に関連のないものは置かない</li> </ol>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業概要の説明と進め方) 「環境を通して行う保育」の意味①	事前学習	教科書の目次・第1章を読み、学習内容の概観を把握する。
		事後学習	子どもの発達にふさわしい環境について自分の考えをまとめる。
第2回	環境を通して行う保育の意味② 領域の意味、子どもの育ちと領域「環境」 ねらい及び内容の理解	事前学習	幼稚園教育要領、教科書第2章を読み、要点をまとめる。
		事後学習	領域の意味を振り返り、重要な要点をノートにまとめる。
第3回	子どもを取り巻く人的環境	事前学習	幼稚園教育要領の保育内容「環境」、教科書の第3章を読み、自分の考えをまとめる。
		事後学習	人的環境の意味を振り返り、要点をまとめる。

第4回	子どもを取り囲む物的環境 室内環境、室外環境の構成について	事前学習	幼稚園教育要領の保育内容「環境」、教科書の第6章を読み、自分の考えをまとめる。
		事後学習	保育室内の画像を収集して、環境構成のポイントを構成する。
第5回	子どもを取り囲む自然環境 人と自然の関わりについて考える 模擬保育として子どもの「遊び」を考える	事前学習	幼稚園教育要領の保育内容「環境」、教科書の第4章を読み、自分の考えをまとめる。
		事後学習	第4章のまとめに加え、文献を読み要点をまとめる。
第6回	グループ演習(1) ～身近な植物への関わりを考える～ 情報機器及び教材を活用する	事前学習	身近な植物を収集し、植物を使った遊びを各自で考えて来る。
		事後学習	情報機器を活用し、植物を利用した遊びを収集、模擬児保育ができるようにする。
第7回	グループ演習(2) ～身近な植物への関わりを考える～ 植物を利用した環境の構成を考える	事前学習	身近な植物を使用した環境の構成(花壇や植物栽培等を各自で考えて来る。
		事後学習	各自が考えた植物利用の方法をまとめる。
第8回	グループ演習(3) ～身近な動物への関わりを考える～ 子どもと動物の関係を考える	事前学習	子どもと身近な動物に対する関わりについて、教科書5章を読んでくる。
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもにとっての動物の意味をまとめる。
第9回	グループ学習(4) ～身近な動物との関わりを考える～ 動物飼育について、模擬保育を通して理解を深める。	事前学習	情報端末から幼稚園、保育園、こども園で飼育可能な動物を選び、その飼育方法を模擬保育としてまとめてくる。
		事後学習	動物飼育の課題をまとめ、改善策を踏まえた飼育活動を提示する。
第10回	グループ活動(5) ～園外保育を考える～ 身近な動物園、水族館等を想定した園外保育について、情報機器及び教材の活用を検討し、模擬保育として展開できるようにする。	事前学習	身近な動物園、水族館、地域資源等に関する資料を情報端末から収集し、その教育的価値を検討し、模擬保育として園外保育を展開できるように準備する。
		事後学習	パワーポイントを使用し、各施設等を想定した園外保育のプレゼンができるようにする。
第11回	数量や図形、文字や標識に対する感覚を身につけるために	事前学習	幼稚園教育要領及び参考文献から、子どもの数量、図形、文字、標識に対する事例をまとめてくる。
		事後学習	授業内容を振り返り、実践に活用できる事例をまとめる。
第12回	園における安全教育と安全管理 保育環境や遊具の設置、管理について	事前学習	保育にかかわる安全教育・安全管理についての資料を収集してくる。
		事後学習	授業の振り返りから、安全管理チェックシートを基にした保育環境のあり方を考える。
第13回	食育活動を考える	事前学習	食育に関する文献を読み、食育の類型をまとめてくる。
		事後学習	授業内容から、食育の活動計画を立て、提出する。
第14回	持続可能な社会に向けた保育実践の内容を指導計画としてまとめる	事前学習	持続可能な社会とは何かを調べ、保育実践として展開可能な指導計画を考えてくる。
		事後学習	環境教育の実践に際しての指導計画を作成する
第15回	持続可能な社会へ向けての保育実践をパワーポイントにまとめ、発表する	事前学習	14回授業の指導計画をもとにPPを使用して発表できるようにする。
		事後学習	これまでの授業で学んだ事を振り返り、保育内容「環境」に対する自分の考えをまとめる。